

## 古着からSDGs考えたよ 我孫子・新木小で「出張授業」



SDGsのゴールが書かれた朝日新聞社の副教材「ペタッとSDGs新聞学習ふせん」を使って学ぶ児童

「古着deワクチン」の概要は(こちら<https://shop.asahi.com/item/2365.html>)。

「古着deワクチン」の概要は(こちら<https://shop.asahi.com/item/2365.html>)。この日は、児童が持ち寄った古着を講師が手に取り、輸出できる根拠を説明。持続可能なファッションをめざすねらいを話した。志田絃華さん(11)は「SDGsは難しいと思うけど、古着の寄付がSDGsにつながるって知って身近に感じました」。小林樹生さん(11)は「SDGsの目標達成のための具体的な取り組みを知ることができた。自分たちができることを家族とも話し合いたい」と話した。

「古着deワクチン」の概要は(こちら<https://shop.asahi.com/item/2365.html>)。2コマ目で取り上げた「古着deワクチン」は、日本の古着をカンボジアなどに輸出して販売し、再利用するビジネス。利益の一部をポリオワクチンとして寄付し、途上国の子どもを救っている。これまでに約4981万着分の衣類が再利用され、約628万人分のワクチンを寄付してきた。この日は、児童が持ち寄った古着を講師が手に取り、輸出できる根拠を説明。持続可能なファッションをめざすねらいを話した。志田絃華さん(11)は「SDGsは難しいと思うけど、古着の寄付がSDGsにつながるって知って身近に感じました」。小林樹生さん(11)は「SDGsの目標達成のための具体的な取り組みを知ることができた。自分たちができることを家族とも話し合いたい」と話した。

我孫子市立新木小学校で2月20日、新聞社の仕事を学び、ファッションとSDGs(持続可能な開発目標)について理解を深める授業があった。日本リユースシステム(東京都港区)と朝日新聞社が協業している「古着deワクチン」というビジネスをファッションのテーマに選び、両社の社員が登壇した。



「この古着は輸出できるかな？」という講師の問いかけに、手で「○」を合図した児童=いずれも我孫子市立新木小学校